

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

平成26年 6月 17日

兵庫県知事 殿

提出者

住 所 兵庫県高砂市曾根町2900

氏 名 東洋紡(株)高砂工場

工場長 山川 晃禎

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 079-447-7160

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	東洋紡(株)高砂工場
事業場の所在地	兵庫県高砂市曾根町2900
計画期間	平成25年4月1日から平成26年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	1639 その他の有機化学工業製品製造業
②事業の規模	製品出荷額 571,221万円 (平成25年度実績)
③従業員数	131人 (平成26年3月末)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度（平成24年度）実績】

産業廃棄物の種類

排 出 量

別紙のとおり

t

(これまでに実施した取組)

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類

排 出 量

別紙のとおり

t

(今後実施する予定の取組)

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)  
廃プラスチック、廃金属、廃液等を分別して保管している。

②計画

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)  
今後も同様に分別を行なう。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量		別紙のとおり t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		別紙のとおり t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量		別紙のとおり t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量		t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		別紙のとおり t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組)	別紙のとおり	
			t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組)	別紙のとおり	
			t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	別紙のとおり	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		t
	(これまでに実施した取組)	別紙のとおり	

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類			
	全処理委託量	t	t	
	優良認定処理業者への 処理委託量	別紙のとおり		t
	再生利用業者への 処理委託量			t
	認定熱回収業者への 処理委託量			t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t		t
	(今後実施する予定の取組)			
※事務処理欄				

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

## 1. 会社の概要

- 1) 会社名  
東洋紡株式会社
- 2) 資本金  
517億3千万円
- 3) 従業員数  
3,043人（'14.3末）

## 2. 当該事業場において現に行なっている事業の概要

- 1) 従業員数  
131人（'14.3末）
- 2) 製造品出荷額等  
5,712百万円（2013年度実績）

- 3) 製造概要  
当工場では、医薬品や各種工業薬品の中間体である複素環式化合物を主とした有機精密化学薬品、ポリプロピレン関係接着剤を主な用途とする塩素化樹脂(塩素化ポリプロピレン等)を製造している。医薬・農薬・写真薬等の原料となる有機硫黄化合物は一部の製品を残し製造を中止し、詰替え販売としている。

- 4) 製造等フローシート  
図 1～3 参照

- 5) 工場配置図  
図 4 参照

- 6) 事業展望  
有機精密化学薬品は大手医薬品メーカーからの受託生産製品を堅調に受注出来ている。塩素化樹脂は、有機溶剤を溶媒としたものが主であったが、水系溶媒への転換に注力しており顧客からも高い評価をいただいている。

- 7) 廃棄物発生フロー図  
図 1～3 参照

- 8) 連絡先  
担当者：東洋紡株式会社 高砂工場  
環境・安全管理室 藤井 勇  
電話番号：079-447-7168(直通)

3. 計画期間  
平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

## 4. 特別管理産業廃棄物の処理に係わる管理体制に関する事項

- 1) 管理組織図  
別紙-1「EMS実行組織図」参照
- 2) 管理体制、教育・研修、情報公開

### ①管理体制

当工場(研究所含む)は「ISO-14001」の認証を取得しており、廃棄物を含む環境関連

事項は環境マネジメントシステム(EMS)の実行組織で管理している。

②教育・研修

廃棄物の管理・処理手順等、または環境関係法令の適用・届出等について基準・標準を定めており、これらは環境マネジメントシステムの中で、最新版管理がなされ、全従業員に周知徹底教育が行なわれている。

また各種資格・研修に関しては実務担当者以外にも対象範囲を広げている。

③CSRの顧客への配布、あるいは当社のホームページ等を通じて情報公開に努めている。

5. 特別管理産業廃棄物の処理に関する事項

[排出の抑制、分別、再生利用に関する事項を含む]

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

○現状 前年度(平成25年度)実績

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強酸	強アルカリ	廃油(有害)
排出量	713	2747	8355	43

○計画 目標

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強酸	強アルカリ	廃油(有害)
排出量	800	2700	8300	30

自ら行なう特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

○現状 前年度(平成25年度)実績

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強酸	強アルカリ	廃油(有害)
自ら再生利用を行なった量	0	0	0	0

○計画 目標

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強酸	強アルカリ	廃油(有害)
自ら再生利用を行なった量	0	0	0	0

自ら行なう特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

○現状 前年度(平成25年度)実績

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強酸	強アルカリ
自ら熱回収を行なった量	259	0	0
自ら中間処理により減量した量	259	0	8141

○計画 目標

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強酸	強アルカリ
自ら熱回収を行なった量	300	0	0
自ら中間処理により減量した量	300	0	8000

自ら行なう特別管理産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

○現状 前年度(平成25年度)実績

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強酸	強アルカリ
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0	0	0

○計画 目標

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強酸	強アルカリ
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0	0	0



特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

○現状 前年度(平成25年度)実績

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強酸	強アルカリ	廃油(有害)
全処理委託量	454	2747	214	43
優良認定処理事業者への処理委託量	454	0	214	43
再生利用業者への処理委託量	0	0	0	0
認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0
認定熱回収業者以外の熱回収を行なう業者への処理委託量	0	0	0	0

○計画 目標

特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強酸	強アルカリ	廃油(有害)
全処理委託量	500	2700	300	30
優良認定処理事業者への処理委託量	500	0	300	30
再生利用業者への処理委託量	0	0	0	0
認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0
認定熱回収業者以外の熱回収を行なう業者への処理委託量	0	0	0	0

1) 基本事項

- ① 産業廃棄物の適正処理を確保するため、関連する法令その他の規則を順守するとともに行政の環境施策に協力する。
- ② 発生した産業廃棄物は自ら処理することを原則とし、処理業者に委託する場合であっても収集運搬から処分に至るまで確認し的確に管理する。
- ③ 外部委託処理量の削減、再生利用の拡大等については環境マネジメントプログラムにとりあげ数値目標を定め実行する。これら処理に関する目標及び計画は定期的に見直しを行なう。
- ④ 廃棄物の処理について次に掲げる事項を実施する。

発生抑制	発生抑制を考慮した製造方法を開発時より検討する。
再生利用	資源化、燃料化を行なう処理業者を選択する。
自己中間処理	廃油・廃アルカリ焼却施設をフル稼働し、自社焼却処理を推進する。
その他	処理内容を確認し、適正な処理業者と委託契約を締結する。

2) 廃棄物処理の現状

① 外部委託処理

2008年度 3200t、2009年度 3400t、2010年度 3600t、2011年度 3600tとほぼ横ばい状態であったが、2012年度は5400tとなり2013年度も5400tとなった。原因としては、2011年度までは強酸が自社処理可能であったが、施設増設となって場内排水量が増加となり、強酸の自社処理分を外部委託するようになった為である。2013年度の外部委託処理の割合は37%である。

- ② 自己中間処理  
当工場には中間処理施設として「廃油・廃アルカリの焼却施設」及び、排水処理施設に付属した「汚泥の脱水施設」がある。

・廃油・廃アルカリの焼却施設

外部委託処理を少しでも減らすために建設した焼却炉である。この炉は燃料の一部に都市ガスを使用し昇温と安定化を行なう。そして社内の廃油を主燃料とし廃アルカリを焼却処理する。

処理量は2013年度実績で「廃油: 259t 廃アルカリ: 8,141t」である。

・排水汚泥の脱水施設

排水処理施設で凝集沈殿したスラッジの脱水施設である。含水率は脱水前で約98%、脱水後は約70%となり、汚泥は約1/15に減量化されて委託処理(再生利用;セメント原料化)される。

- ③ 再生利用  
使用原料は、出来るだけ再利用できるようなノウハウになっている。最終的に排出される廃液・廃油については、これ以上の利用が出来ない物が出てくる。

- 3) 目標の設定  
環境マネジメントシステムの取り組みの中で、「廃液量の削減」を目的・目標の筆頭に上げ、各部門において実行計画を策定し活動を続けている。

4) 具体的取組

①発生部門

主に製造部門になるが、製品量に対する廃液量の割合を減らすため、製品収量の増加について各部門で取り組んでいる。生産品目が多いため、個別の設定が難しいが、生産量の多い品目から取り組んでもらっている。

② 研究部門

環境負荷の低減に配慮した製品及び製造プロセスの開発に努めることを環境方針としており、その為の標準類も整備した。今後排出の抑制及び自己中間処理の強化に向けて製造部門と協力しながら積極的な取組を行なう。

5) 廃棄物処理に係わる情報の収集・管理

環境管理部門において、廃棄物関係法令や廃棄物の処理技術についての情報の収集・整理を行ない、EMS実行委員会を通じて全従業員に情報提供する。必要な場合は関連標準を改訂し全部門に配布・周知させる。

6) 産業廃棄物処理施設の設置状況等

施設名	処理対象 産業廃棄物	処理方法	処理能力 (t/日)	設置年月	設置場所
廃油・廃アルカリの 焼却施設	廃油 (溶剤、有機酸) 廃アルカリ	焼却	43.8	平成18年 12月	工場内 (図4参照)
汚泥の脱水施設	無機性汚泥	加圧脱水	5	平成20年 9月	工場内 (図4参照)

6. 特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

前記のとおり

## 7. 特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

環境マネジメントシステムにおける廃棄物の管理標準を順守し、分別を徹底して適性処理・再生利用を図る。

## 8. 特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

前記のとおり

有害物質であるジクロロメタンは含有率の低いものを除きすべてを業者にて再生処理をしている。産業廃棄物とはならないが、2013年度は約163tの廃有機溶剤を売却し再生利用とした。

## 9. 特別管理産業廃棄物を適正に処分するために講じようとする措置に関する事項

前記のとおり

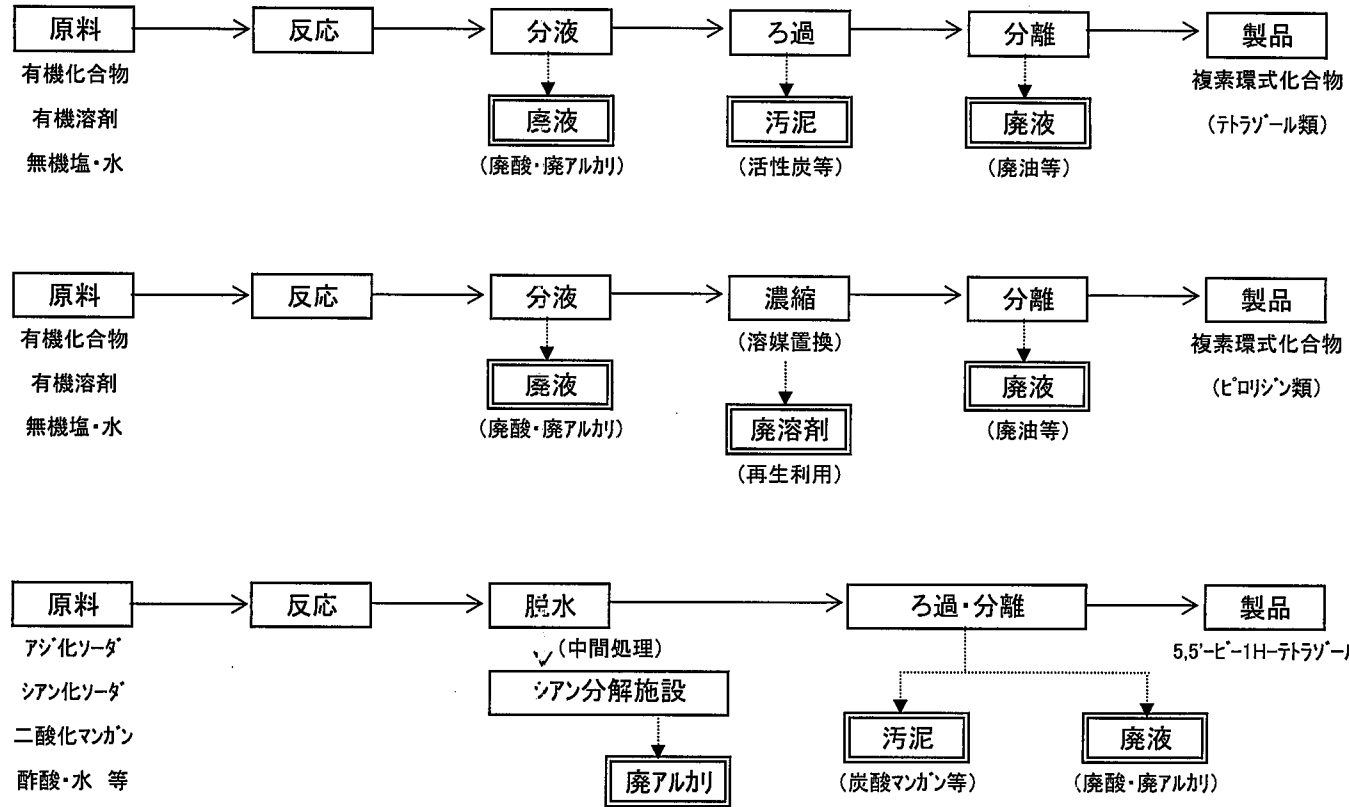
図 1～3 製造等フローシート

4 工場 配置図

別紙 1 EMS実行組織図

2 委託処理状況

図1 有機精密化学薬品製造・廃棄物発生フローシート



※ 反応缶等の洗浄有機溶剤・洗浄水(廃アルカリ)が発生するが、その大部分が焼却炉で自己中間処理される。

図2 塩素化樹脂製造・廃棄物発生フローシート

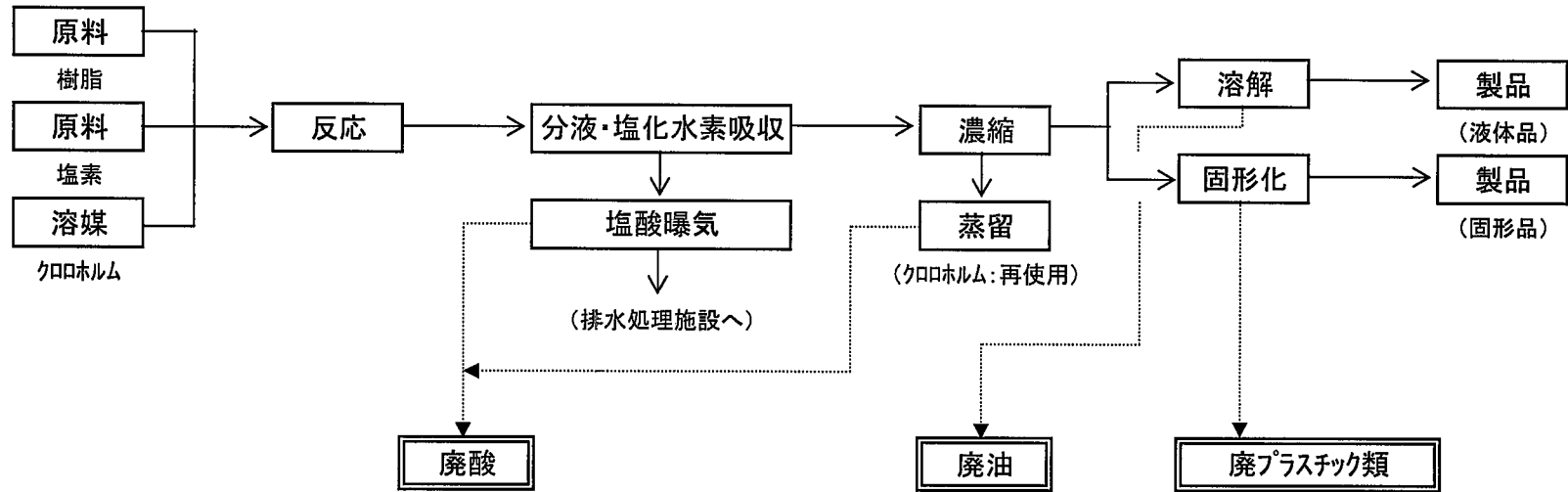


図3

排水処理施設フローシート

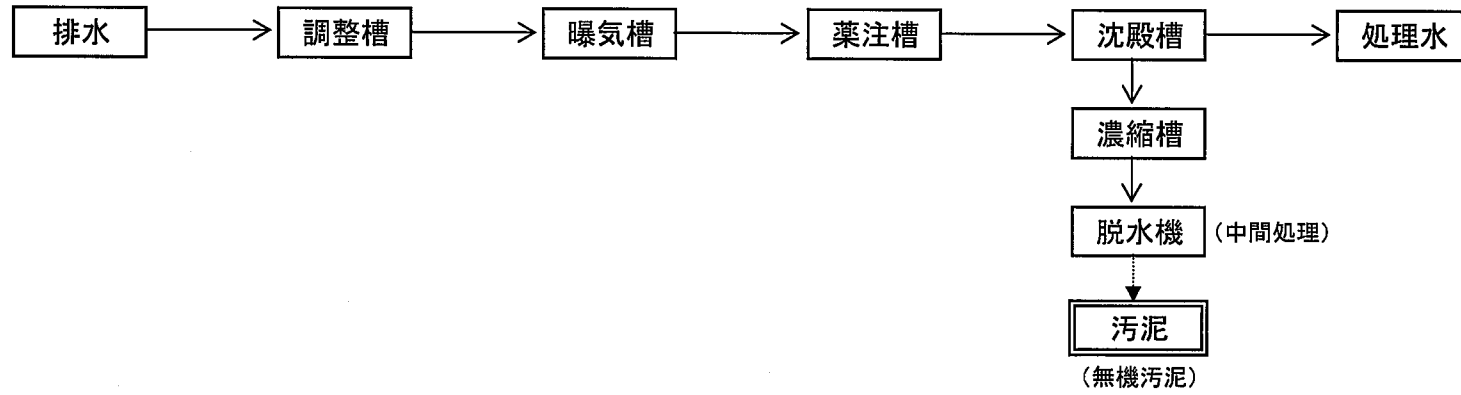
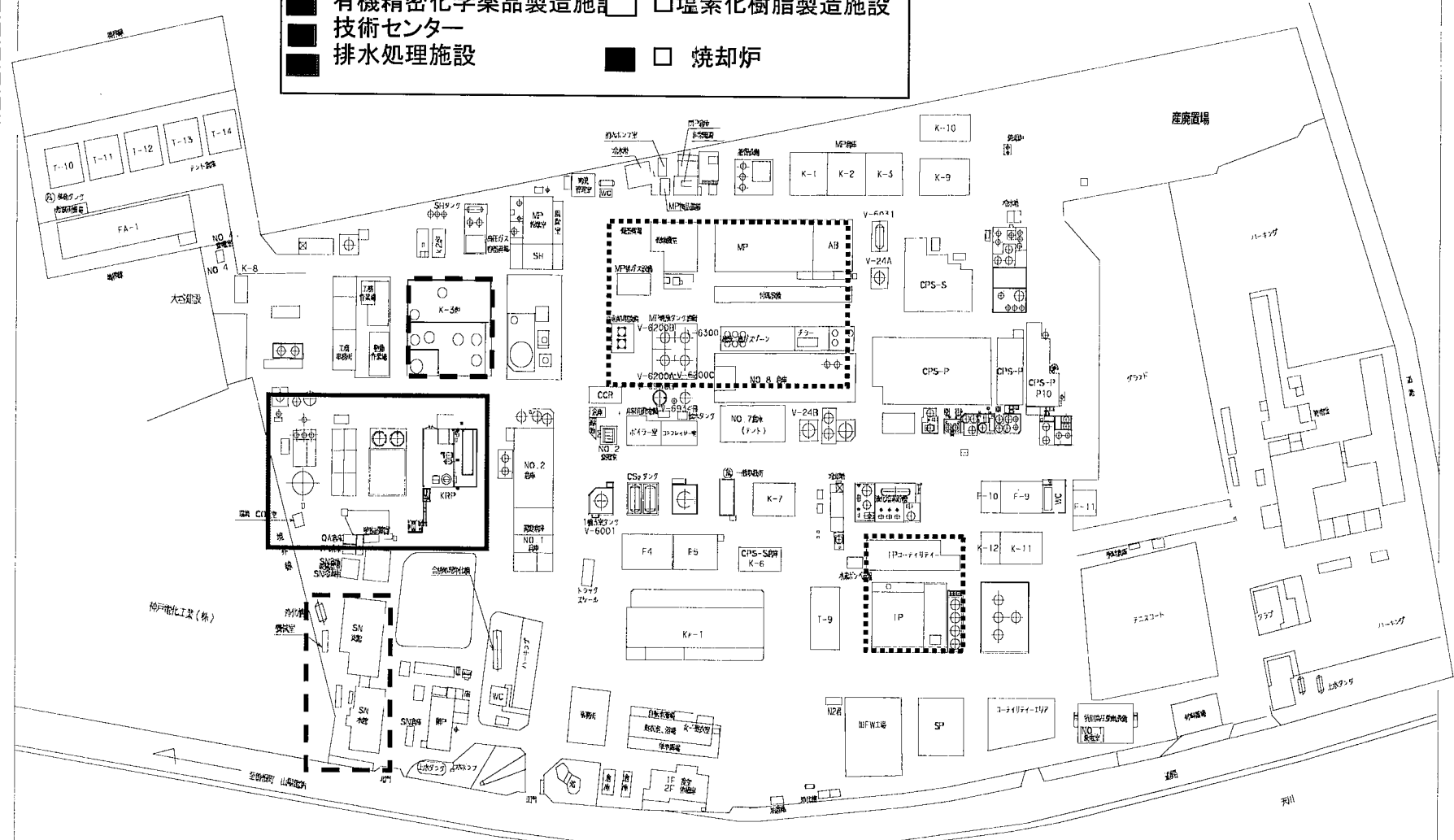


図4

有機精密化学薬品製造施設  
 塩素化樹脂製造施設  
 技術センター  
 排水処理施設  
 焼却炉



(備考)  
1. ポイラー室の西側40~180段と76。

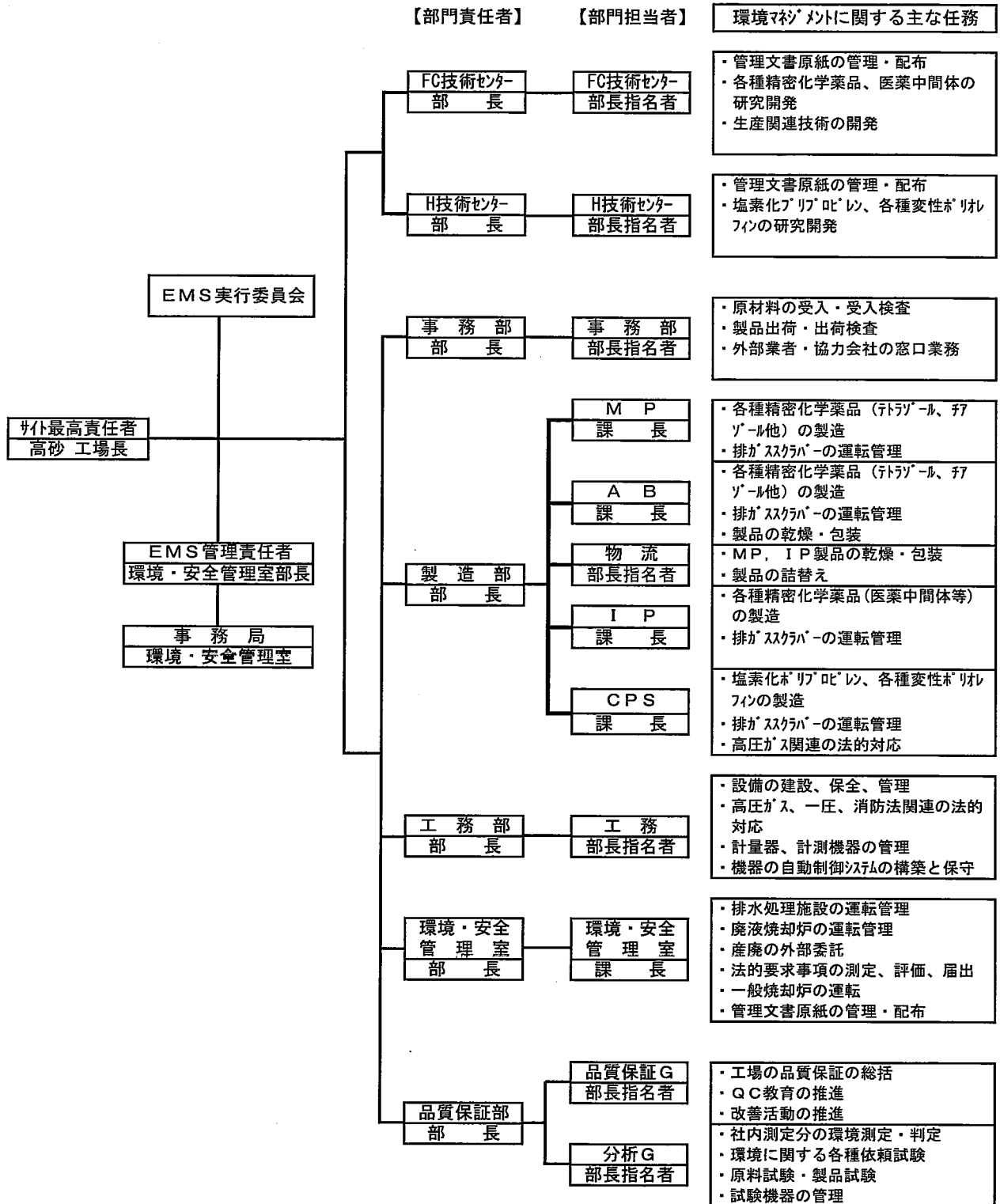
図番	高砂工場配置図	東洋紡株式会社 高砂工場	
名称		工場長	課長
		部長	製図 設計
尺度	1/800 (A2)	2013年 1月 10日	計 配布先



# EMS 実行組織図

高砂工場長

制定 '97.08.11  
改定19 '13.06.26



番号	産廃の種類			発生職場	収集運搬	中間処理		収集運搬 (中間処理以降)	最終処分		再利用	
	種類	通称名等	特管区分			業者名	処理方法		業者名	処分方法	業者名	再利用用途
1	廃油	廃有機溶剤	特管	多目的製造施設等	----	自社	焼却	----	----	----	----	----
2	廃酸	有機廃酸	特管	酢酸製造施設	----	自社	焼却	----	----	----	----	----
3	廃アルカリ	----	----	多目的製造施設	----	自社	焼却	----	----	----	----	----
4	金属くず	(無償物)	----	全職場	内藤金属(株)	内藤金属(株)	圧縮	----	----	----	内藤金属(株)	金属原料
5	ガラスくず	(無償物)	----	全職場	昌平(株)	昌平(株)	破砕	----	----	----	日本山村硝子(株)	ガラス原料
5-1	ガラスくず	(無償物)	----	全職場	昌平(株)	昌平(株)	破砕	(有)上中運送	共栄興業(株)	埋立	日本山村硝子(株)	ガラス原料
6	廃酸	----	----	多目的製造施設等	エコシステムジャパン(株) (株)新岡山工業 (株)ユアック 一宮運輸(株) (株)辰巳商会	エコシステム山陽 (株)	焼却	エコシステムジャパン(株)	岡山県 環境保全事業団	埋立	住友大阪セメント(株)	セメント原料 製造 原燃料
7	廃アルカリ	----	----									
8	汚泥	----	----									
9	金属くず	腐食ドラム	----									
10	廃油	廃有機溶剤	特管									
11	廃酸	----	特管									
12	廃アルカリ	----	特管									
13	廃アルカリ	CN含有	特定有害									
14	汚泥	----	特管									
15	廃油	EDC含有	特定有害									
16	廃油	DCM含有	特定有害									
17	廃酸	DCM含有	特定有害									
18	廃プラスチック類	----	----									
19	ガラスくず	----	----									
20	廃油	廃有機溶剤	特管	多目的製造施設	エコシステムジャパン(株) (新)新岡山工業	光和精鉱(株) 戸畑製造所	有効利用	----	----	----	光和精鉱(株) 戸畑製造所	セメント原料製造 原燃料
21	廃アルカリ	----	----	多目的製造施設	(株)クリーンセンター	(株)クリーンセンター	蒸留	----	----	----	(株)クリーンセンター	溶剤原料
22	廃油	DCM含有	特定有害	多目的製造施設	(株)クリーンセンター	(株)クリーンセンター	蒸留	----	----	----	(株)クリーンセンター	溶剤原料
23	廃油	廃有機溶剤	特管	多目的製造施設	サンワ技研(株)	サンワ技研(株)	燃料化	----	----	----	サンワ技研(株)	セメント焼成燃料
24	汚泥	汚泥	----	多目的製造施設等	(株)森商事	サンワ技研(株)	燃料化	----	----	----	サンワ技研(株)	セメント焼成燃料

番号	産廃の種類			発生職場	収集運搬	中間処理		収集運搬 (中間処理以降)	最終処分		再利用	
	種類	通称名等	特管区分			業者名	処理方法		業者名	処分方法	業者名	再利用用途
25	廃油	廃有機溶剤	特管	塩素化ポリオレフィン 製造施設等	(株)リバースケミカル	(株)リバースケミカル	蒸留	----	----	----	(株)リバースケミカル	溶剤原料
						(株)リバースケミカル 中間処理後→ エコシステム山陽 (株)	焼却 (中間処分)	----	----	エコシステム山陽 (株)	セメント原料 製造 原燃料	
								岡山県 環境保全事業団	埋立	----	----	
								カミシマ技研株式会社	埋立	----	----	
						----	----	住友大阪セメント(株) 赤穂工場	原料化 燃料化			
						(株)リバースケミカル 中間処理後→ 新日本開発株式会社	焼却	----	埋立	----	----	
								(株)環境保全センター	埋立	----	----	
								大栄環境(株)	埋立	住友大阪セメント(株) 赤穂工場	原料化 燃料化	
						----	----	住友大阪セメント(株) 高知工場	原料化 燃料化			
						(株)リバースケミカル 中間処理後→ 西播磨株式会社	焼却	----	埋立	----	----	
株式会社明和クリーン	埋立	----	----									
----	----	大阪湾広域臨海 環境整備センター	埋立	----	----							
(株)リバースケミカル 中間処理後→ 光和精鉱(株) 戸畑製造所	焼却	----	----	光和精鉱(株) 戸畑製造所	セメント原料製造 原燃料							
(株)リバースケミカル 中間処理後→ 株式会社ハルミ	焼却	----	----	住友大阪セメント(株) 赤穂工場	原料化 燃料化							
26	廃油	----	特管	多目的製造施設等	(株)ダイセキ (株)針谷商店	(株)ダイセキ	燃料化	(株)ダイセキ	----	----	(株)ダイセキ	燃料化
27	廃アルカリ	----	特管	多目的製造施設等	(株)ダイセキ	(株)ダイセキ	中和	----	----	----	----	----

番号	産廃の種類			発生職場	収集運搬	中間処理		収集運搬 (中間処理以降)	最終処分		再利用	
	種類	通称名等	特管区分			業者名	処理方法		業者名	処分方法	業者名	再利用用途
28	廃酸	----	----	多目的製造施設等	大幸工業(株)	大阪ベントナイト事業 協同組合	中和 フェライト化	大幸工業(株)	大阪湾広域臨海 環境整備センター	埋立	----	----
29	廃アルカリ	----	----									
30	汚泥	----	----									
31	廃酸	----	特管									
32	廃アルカリ	----	特管									
33	廃油	廃有機溶剤	特管	多目的製造施設等	(株)リバースケミカル	(株)パルテック	焼却	(株)パルテック	大阪湾広域臨海 環境整備センター	埋立	----	----
34	廃プラ	空ドラム	----	多目的製造施設等	(株)リバースケミカル	(株)パルテック	粉碎、焼却	(株)パルテック	大阪湾広域臨海 環境整備センター	埋立	----	----
35	汚泥	排水処理汚泥	----	排水処理施設	(有)エコ・マテリアル	アマタ(株)	混合原料化	----	----	----	住友大阪セメント(株)	セメント原料
36	廃油	機械油	全職場	混合燃料化			アマタ(株)					燃料化
37	もえがら	(一般廃棄物)	----	一般焼却炉			混合原料化					住友大阪セメント(株)
38	廃プラスチック類	----	----	全職場	(有)エコ・マテリアル	(有)エコ・マテリアル	破碎・溶融	----	----	----	(有)エコ・マテリアル	燃料
39	廃プラスチック類	----	----	全職場	木村工業(株)	木村工業(株)	破碎	----	大栄環境(株)	埋立	大栄環境(株)	燃料
40	廃プラスチック類	----	----	全職場	関西環境建設(株)	(株)環境保全センター	選別・破碎	(株)環境保全センター	(株)環境保全センター	埋立	----	----
41	廃蛍光灯	----	----	全職場	木村工業(株)	(株)ジェイ・エム・アール	破碎・回収	----	(株)環境保全センター イー・ステージ(株)	埋立	(株)ジェイ・エム・アール	水銀回収
42	廃乾電池	----	----	全職場	ミヤマ(株)	野村興産(株)	焙焼	----	----	----	野村興産(株)	フェライト 金属原料
43	金属くず	腐食ドラム	----	多目的製造施設等	木村工業(株)	木村工業(株)	破碎	----	----	----	木村工業(株)	製鋼原料化
44	廃プラスチック類	腐食コンテナ	----	多目的製造施設等	木村工業(株)	(株)サニックス	破碎	----	----	----	(株)サニックス	資源化 セメント原料
45	廃酸	廃酸	特管	多目的製造施設等	(有)森商事	光和精鉱(株) 戸畑製造所	有効利用	----	----	----	光和精鉱(株) 戸畑製造所	セメント原料 製造 原燃料
46	廃酸	廃酸	----									
47	廃アルカリ	廃アルカリ	特管									
48	廃アルカリ	廃アルカリ	----									
49	廃油	廃有機溶剤	特管									
50	廃油	廃有機溶剤	特管	多目的製造施設等	(有)一倉	光和精鉱(株) 戸畑製造所	有効利用	----	----	----	光和精鉱(株) 戸畑製造所	セメント原料製造 原燃料

番号	産廃の種類			発生職場	収集運搬	中間処理		収集運搬 (中間処理以降)	最終処分		再利用	
	種類	通称名等	特管区分			業者名	処理方法		業者名	処分方法	業者名	再利用用途
51	汚泥	廃水銀	特管	分析室	大阪薬研(株) 旭興産業(株) 日本通運(株) 日本貨物鉄道(株)	野村興産(株)	焙焼	---	野村興産(株)	埋立	---	---
52	木屑	廃パレット等 木屑	----	全職場	木村工業(株)	木村工業(株)	破碎	木村工業(株)	----	----	神戸エンジニアリング サービス(株)	チップ燃料化 二次製品化
53	木屑	廃パレット等 木屑	----	全職場	姫路環境開発(株)	姫路環境開発(株)	破碎 源容 溶剤溶融 固化	----	----	----	姫路環境開発(株)	破碎 源容 溶剤溶融 固化
54	汚泥	汚泥	----	多目的製造施設等	アサヒブリック(株)	アサヒブリック(株)	凝集沈殿 焼却	アサヒブリック(株)	(有)あいずダストセンター ひめゆり総業(株) 中越環境開発(株) (財)岡山県環境事業団 カシマ技研(株) (株)フクシマエコテック 大阪湾広域臨海 環境整備センター (有)吉本興業 仙台環境開発(株) (有)栄光環境 ひびき灘開発(株) (株)クシヨー (株)大総	埋立	光和精鉱(株) 新日鐵高炉セメント(株) (株)トクヤマ 住友大阪セメント(株) 麻生ラファージュセメント(株) (株)横浜インダストリー (株)ヒアエンジニアリング 日進興業(株) アサヒブリック(株)	再生利用
55	廃油	廃油	----				油水分離 焼却					
56	廃酸	廃酸	----				中和・焼却					
57	廃アルカリ	廃アルカリ	----				焼却					
58	廃プラスチック類	廃プラスチック類	----	化成品研究所	アサヒブリック(株)	アサヒブリック(株)	焼却	アサヒブリック(株)	(有)あいずダストセンター ひめゆり総業(株) 中越環境開発(株) (財)岡山県環境事業団 カシマ技研(株) (株)フクシマエコテック 大阪湾広域臨海 環境整備センター (有)吉本興業 仙台環境開発(株) (有)栄光環境 ひびき灘開発(株) (株)クシヨー (株)大総	埋立	光和精鉱(株) 新日鐵高炉セメント(株) (株)トクヤマ 住友大阪セメント(株) 麻生ラファージュセメント(株) (株)横浜インダストリー (株)ヒアエンジニアリング 日進興業(株) アサヒブリック(株)	再生利用
59	金属屑	金属屑	----				焼却					
60	ガラスくず	ガラスくず	----				焼却					
61	木くず	木くず	----				破碎・焼却					
62	繊維くず	繊維くず	----				焼却					
63	動植物性残さ	動植物性残さ	----				焼却					
64	動物系固形 不要物	動物系固形 不要物	----				焼却					
65	ゴムくず	ゴムくず	----				焼却					
66	汚泥	汚泥	特管				凝集沈殿 焼却					
67	廃油	廃油	特管				焼却					
68	廃酸	廃酸	特管				中和・焼却					
69	廃アルカリ	廃アルカリ	特管				焼却					

番号	産廃の種類			発生職場	収集運搬	中間処理		収集運搬 (中間処理以降)	最終処分		再利用					
	種類	通称名等	特管区分			業者名	処理方法		業者名	処分方法	業者名	再利用用途				
70	汚泥	汚泥	---	多目的製造施設等	宮坂産業(株)	関西クアセンター(株)	固化	宮坂産業(株)	大阪湾広域臨海環境整備センター	埋立	---	---				
71	汚泥	廃マンガン汚泥	---	多目的製造施設等	サンワリユーツ(株)	三和油化(株)	混錬	サンワリユーツ(株)	---	---	住友大阪セメント(株)	セメント原燃料化				
72	廃油	メチル含有廃油	特定有害	多目的製造施設等	サンワリユーツ(株)	三和油化(株)	焼却	サンワリユーツ(株)	---	---	三和油化(株)	混練原料として有効利用				
73	廃油	PCB	特管	電気設備	三輪運輸工業(株)	日本環境安全事業(株)	洗浄又は分離、分解	---	---	---	近畿環境興産(株)他	再生利用				
74	汚泥	廃水銀	特管	化成品研究所	アサヒリテック(株) 興隆産業(株) 日本通運(株) 日本貨物鉄道(株)	野村興産(株)	焙焼	---	野村興産(株)	埋立	---	---				
75	汚泥	汚泥	---	多目的製造施設等	RTT(株)	リマテック(株)	混錬燃料化 再資源化	---	---	---	太平洋セメント(株) 住友大阪セメント(株) 太平洋セメント(株) 南海化学工業(株)	セメント原燃料				
76	廃油	廃有機溶剤	特管		三岐通運(株)											
77	廃油	廃有機溶剤	特管													
78	廃油	廃有機溶剤	特管													
79	廃酸	廃酸	---													
80	廃アルカリ	廃アルカリ	---													
81	廃油	DCM含有	特定有害													
82	汚泥	DCM含有	特定有害													
83	廃アルカリ	廃アルカリ	---	多目的製造施設等	相和運送(株)	(株)ディ・シー	生物処理	---	---	---	---	---				
84	廃アルカリ	廃アルカリ	特管	多目的製造施設等	相和運送(株)	(株)三共テクノス	中和	---	---	---	---	---				
85	汚泥	廃マンガン汚泥	---	多目的製造施設等	三岐通運(株)	興徳クリーナー(株)	脱水・固化	---	大阪湾広域臨海環境整備センター ・神戸沖処分 ・大阪沖処分 (株)南部興産 (株)環境保全センター 大栄環境(株)	埋立	---	---				
													---	---	三菱マテリアル(株)	再資源化
													---	---	光和精鉱(株)	セメント原燃料
													---	---	サンワ技研(株)	セメント原燃料
													---	---	(株)ソイルマネジメントジャパン	建設用資材化
													---	---	マルエ工業(有)	資材化
86	汚泥	汚泥	---	多目的製造施設等	RTT(株)											